



## 現役大学生が地域おこし協力隊になって

松野町 地域おこし協力隊 大塚 陸人

### なぜ地域おこし協力隊になったのか

平成28年4月から平成30年3月末まで、私は日本大学を休学し、松野町地域おこし協力隊として活動していました。4月からは復学のため、出身地である東京に戻ります。

「何でわざわざ休学して来たんや？」  
2年間、たくさんの方にこの質問を投げかけられました。私は、幼い頃から東京で育ってきたのですが、何故だか高校生のころから田舎暮らしに興味がありました。そして、就職活動を直前に迎えた2年前の大学3年生のとき。



田植えの様子

今後の人生について考えるなかで、どうしてもその思いが抑えきれなくなり、地域おこし協力隊になることを決心しました。休学を選択したのは正直、移住が少し怖かったから。もし地域に馴染めなかつたらどうしよう、仕事はどうなるのだろう。2年前は不安なことだらけで、東京に逃げ場を作っておきたかったので。自分でも、弱気な選択で、甘い考えだというのは痛いほど分かっています。しかし、松野町に移住してみても、2年前に思っていたことは杞憂に終わりました。仕事も、地域の方々との付き合いも、お祭りなどの行事も全てが新鮮で刺激的で本当に充実した2年間でした。今では、松野町にすっかり魅了され、大学を卒業したらまた松野町に帰ってきたいと考えています。

### 2年間の活動

2年間の活動のメインは農業でした。松野町の特産品である桃の栽培振興、

(株)松野町農林公社のアグリレスキュー事業(高齢者などへの農作業支援)を通じて、農業スキルを取得を目指し、桃、柚子、梅、お茶、米、野菜など様々な農作業を経験しました。農業の面白さ、難しさ、奥深さを、身をもって学ぶことができ、松野町に帰ってきてからも農業は続けていきたいなと思っています。

また、農業とは別の活動で、松野町と母校の大学生との連携プロジェクトを進めてきました。松野町全体を勉強のフィールドとし、東京の大学生に農業や観光、移住など興味のある分野について学んでもらう。そして、東京の若者の視点で気になったこと、感じたこ



雪景色の桃畑

